

コウノトリに思う

中村良介

2月27日は武生白山のコウノトリの愛の捕獲から1年目である。前日の26日早朝から始まったが、それは又大変な人である。せいぜい8名もいれば充分かと思われるのに、役所報道関係およそ60名、このあわただしさに彼女が気付かぬはずがない。案の定仲々の警戒で、午前中殆んど寄りつかない。午後になって近づく様子も見られるようになったが、大方は停止に休止の連続で午前6時から午後6時迄の12時間頑張って1日目は終わった。いよいよ2日目だ。1日目完全にコウノトリの本能に参ったが、又根気比べだ。動きの範囲は一層広くなり、然も餌場から程遠い所で懸命に餌がしや、遊びをやっているのでチャンスらしい事は1回もなく午後になった。どうやら空腹を感じてかそろそろ近づくのだが大変な警戒である。そこで餌場から鳥が離れた時、前線の小屋と打合せで好物のフナを餌場の外から中へと誘い込む様に運んでもらった。それが良かったのか、とうとうその時が来た。午後4時10分、コウノトリには気の毒だが美事に網にかかったその時の気持は大変複雑で、喜びと悲しみが一緒になった様で、涙が出て仕方なかった。努力の甲斐あって無事救出作戦は成功であった。以上2日間の日誌であるがコウノトリ、トキの様な広い生息地が必要な鳥は当然少なくなっていくのが現在の我が国の現状である。野鳥達の住み易い環境を大切に守ってやるのには、高度な政治的判断が必要になって来た。環境庁の発足、自然を守る全国自然保護連合、野生生物基金への加入等何れも大変喜ばしい事である。それ等に遅れない様にと福井県でも鳥獣保護の第三次五カ年計画が発表になり、新計画がいろいろと沢山ありその姿勢に意を強くした。県民全体の住み良い環境作りのために大いに実行して頂き度いものである。これこそが今迄に数多く減じた、又失なわれようとしている生物に対して報いる唯一の道ではなからうか。

付記 昭和46年度福井県野鳥の会活動一覧表

- 1月 コウノトリの給餌と観察
- 2月 コウノトリ救出に成功、足羽山で冬の野鳥に餌を与える会
- 3月 足羽山探鳥会
- 4月 染色団地でヒバリ、ケリ、チドリを見る会
- 5月 愛鳥週間、鳩ヶ湯研修会
- 6月 足羽山の自然を守る会、野鳥の会全国大会
- 7月 全国自然連台北陸ブロック会議(於金沢)

-
- 8月 北潟の調査
 - 9月 白方方面探鳥
 - 10月 三国町黒目探鳥
 - 11月 越前町渡り鳥調査

福井県野鳥の会会長